

## 利用者、市民の視点から求められる「次世代の河川管理」の姿

### 河川情報のあり方

- 「いつでも、どこでも、誰でも」河川情報を入手できるようになってほしい。
- 緊急時については人的ネットワークを通じて情報が届けてもらいたい。

→ ユビキタス

- 提供される情報は、利用者や市民にとって分かりやすい表現となっており、一般的な情報ではなく、利用者等の属性や置かれている状況に応じてカスタマイズしてほしい。

→ カスタマイズ

- 単に情報を入手するだけでなく、情報を発信し、その情報が関係者間で共有され、その情報が公的に役に立っているとの実感を持ちたい。

→ 双方向性

- 国や都道府県といった河川の管理区分にかかわらず、あらゆる河川情報がデータベース化されており、シームレスに情報を入手し、入手した情報を自由に活用できるようにしてほしい。

→ 総合化

### 河川管理のあり方

- 身近な河川の管理者がだれであっても、ICT等を駆使して効率的で質の高い維持管理を実現してほしい。

→ 安心が実感できる河川管理

- 川を訪れた人が、安心して快適に川で活動できるようにしてほしい。

→ 安心・快適な河川利用

- 川に関心のある人や団体が、やりがいをもって日常的に河川管理に参画できるような仕組みをつくってほしい。

→ やりがいを持てる河川管理への参画

### その他

- 災害時に助けにきてくれたり、情報を伝達してくれるような人的ネットワークを整備してほしい。

# 「次世代の河川管理」を実現するための取り組みの方向性

## 河川情報のあり方

・河川情報が緊急時に機能するためには、平常時から慣れ親しんでいることが必要であることから、緊急時と平常時との連続性の確保が重要

### (1) 利用者・市民が求める情報の伝えられ方(=「ユビキタス」)

非常時 <利用者・市民へのPUSH型情報>

テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、CCTV等日頃使用している様々なツールから提供

緊迫した状況では人的ネットワークからも提供

情報の受け手の属性に応じてどのように行動すればよいか分かるかみ砕かれた情報を複数の機関がタイムリーに提供

平常時 <利用者・市民からのPULL型情報、双方向型情報>

テレビ、ラジオ、インターネット、携帯電話、CCTV等日頃使用している様々なツールから提供

欲しい情報が欲しいときに入手できるよう情報を提供

### (2) 利用者・市民が求める情報(=「カスタマイズ」)

非常時

個々の地域の危険度が実感できる情報

- ・河川や堤防等の縦断的な実況の情報
- ・居住地等の浸水情報
- ・土砂災害の発生情報や発生危険度の情報

迅速かつ確実な避難につながる情報

- ・(市町村による)住民がとるべき避難行動に関する情報
- ・(市町村による)安全区域や避難場所等に関する情報

平常時

警戒避難を含む、水害・土砂災害に関する正しい知識の習得のための情報

- ・緊急時に的確な行動を行うために必要な情報
- ・河川や堤防の整備の現状、危険箇所に関する情報
- ・河川の氾濫によるリスクに関する情報(浸水区域、浸水深、浸水時の流速等)

・防災情報(ハザードマップ等)がどのような前提で、どのようなシナリオに基づき作成されたものであるか等情報の信頼性に関する情報

・大雨が降る、川の水位が上昇すると何が起きるのか、どのような危険が生じるのか、科学的に理解するための情報

・住まい方、土地利用等に関わる平常時からの備えのための情報 等

川に関心のある人や、川を利用したいと考えている人が満足できるような双方向型の情報

・住民を河川管理、防災にインボルブするため、川を理解し川に親しむための双方向型の情報

・河川整備基本方針、河川整備計画、日常の維持管理など河川管理者の政策決定や実施業務の基礎となっているデータ等の情報

川を訪れる人が、安心して快適に川で活動できるような情報

・利用者の居場所に応じた雨量・水位情報、安全・安心情報、環境情報、流域情報等

### (3) 利用者・市民が求める情報システム(=「双方向性」)

河川管理者から提供される情報がリアルタイムで入手できると同時に、利用者・市民から発信した情報が共有されるような双方向型のシステム

情報セキュリティが確保され、プライバシーが保護された安心して利用できるシステム

河川からの氾濫や水質事故を発見した時に通報すれば、河川管理者等がすみやかに現場に急行するような通報システム

### (4) 利用者・市民が求める情報コンテンツ(=「総合化」)

適切にメンテナンスされたデータベースにより提供される情報

管理者の区分に関わらず一元的なルールに基づき提供される情報

# 「次世代の河川管理」を実現するための取り組みの方向性

## 河川管理のあり方

- ・直轄で管理している区間だけを考慮するのではなく、流域全体を視野に入れた仕組みを構築することが重要
- ・平常時の安定的な仕組みが、緊急時にも有効に機能する

### (1) 安心が実感できる効率的で高度な河川管理

#### 非常時

- ・洪水、高潮、津波等の際に確実にポンプ場、水門、樋門等が機能する
- ・施設の遠隔操作システムやバックアップシステムが備えられている
- ・今後の水位予測や氾濫予測、土砂災害発生予測が精度良く行われ、安全であるか危険であるかに関する見通しが立つ
- ・防災関係機関(河川管理者を含む)が連携し質の高い危機管理が実現される
- ・災害時の防災関係機関共有の通信基盤(デジタル無線システム等)が整備されている。

#### 平常時

- ・堤防、ポンプ場、水門等治水施設や砂防施設が適切に維持管理されている
- ・堤防や水位の状態が縦断的にモニタリングされており、どの箇所が危険であるかが確実に把握されている
- ・24時間365日河川のあらゆる地点のCCTVカメラの動画を見ることができる(CCTVカメラによる巡視)
- ・河川の水質や自然環境の状態がきめ細かく把握されている

### (2) 安心・快適な河川利用

- ・良好な河川環境が維持されている
- ・川を訪れたすべての人が安心して快適に川で活動できるような環境整備(ソフト、ハード)がなされている
- ・河川での迷惑行為やゴミの不法投棄が行われない

### (3) やりがいを持てる河川管理への参画

- ・川に関心のある人や団体が、やりがいをもって河川管理に参画できるような仕組みが構築されている
- ・河川管理者と民間・NPO等との役割分担がなされている

## 河川管理の今後の組織・体制のあり方

- ・民間・NPO等との連携、役割分担が適切になされている
- ・データとソフトの専門組織(水情報国土データ管理センター、洪水予測センターなど)が設置されている
- ・防災に関する情報について、専門性を持った組織による責任ある情報が24時間体制で提供される
- ・施設の長寿命化等により維持管理費用が低減される
- ・流域全体を視野に入れ、洪水時等に市町村等による意志決定を支援するような情報を提供する組織が設置されている
- ・観測網の充実や予測精度の向上といった基礎的分野の充実を図る
- ・情報の精度などの標準化・基準化を進めていく

## 「提言」のとりまとめの方向性

### 「提言」の範囲

- ・制度イノベーション(法律改正、制度整備等)についても提言
- ・河川行政だけでは受け止められないものも含めて幅広く提言

### 「提言」とりまとめにあたっての留意事項

- ・国民、市民、住民から見た視点でとりまとめる
- ・分かりやすい言葉づかいでまとめる
- ・「川とともに生きる」など、国民、市民、住民から共感が得られるような表現を用いる

### 「提言」の実現に向けて

- ・できるところから順次段階的に実現する
- ・テストケースで成功例を見せることにより国民的理解を深める
- ・提言の評価、検証についても市民目線で実施する
- ・制度イノベーションも含めて実施できるところから直ちに実行に移す
- ・河川行政だけでは受け止められない事項については、関係部局に働きかけるなど、積極的な姿勢で連携を進める